

I. 茨城県総合計画「いばらき未来共創プラン」

1 計画策定の趣旨

本県は、平成23年に策定し、東日本大震災を受けて平成24年に改定した総合計画「いきいき いばらき生活大県プラン」に基づき、東日本大震災からの復旧・復興や災害に強い県土づくりに全力で取り組むとともに、「産業大県・生活大県づくり」を目指して、広域交通ネットワークなどの県土の発展基盤の整備や企業誘致、中小企業の振興、最先端の科学技術の拠点づくりなどによる地域経済の活性化と働く場の創出、さらには、医療や福祉、教育など身近な生活環境の整備、人づくりやスポーツ・文化の振興など、県勢の発展と県民生活の向上に努めてきたところです。

しかしながら、自治体の消滅が懸念されるほどの急激な人口減少や超高齢化、それに伴う労働力不足や経済成長の鈍化、さらには、社会保障制度の持続性の危機などが現実のものとなってきているほか、グローバル化の進展、資源・エネルギーの制約、情報通信技術の劇的な進歩、生活の安全と安心を求める意識の高まりなど、本県を取り巻く社会経済情勢は大きな転換期に差し掛かっています。

このような時代の潮流や課題に的確に対応し、県民の皆さんと未来のいばらきをともに創るため、平成28年度からの県政運営の指針となる茨城県総合計画「いばらき未来共創プラン」を策定しました。

2 計画の構成と期間

総合計画は、『基本構想』、『基本計画』、『重点プロジェクト』の3部構成とし、次のような内容となっています。

部	章	内容	期間
【第1部】 基本構想	時代の潮流と茨城の特性等	・時代の潮流	平成62年頃 (2050年頃) を展望
		・茨城の特性	
		・これまでの取組	
	いばらきの目指す姿	・基本理念	
・県民の求める『いばらき』			
・目標と将来像			
計画推進の基本姿勢	・人口・経済の展望	・計画を適切に推進するための基本的な姿勢	
【第2部】 基本計画	政策展開の基本方向	・3つの目標のもと、着実に推進すべき施策や取組の体系	平成28～32年度 (2016～2020) の5年間
	地域づくりの基本方向	・地域ごとに重点的に取り組むべき地域づくりの基本方向	
【第3部】	重点プロジェクト	・重点的、分野横断的に推進すべき施策群	

いばらき未来共創プラン全体構成

第1部 基本構想〈2050年頃を展望〉

第1章 時代の潮流と茨城の特性等

第1項 時代の潮流

(県民が一体となって対応すべき重要な視点)

- 急激な人口減少と超高齢化の進行
- 社会経済のグローバル化と交流の拡大
- 大規模自然災害の切迫とインフラの老朽化
- 資源・エネルギーの制約や地球環境問題の深刻化
- 情報通信技術（ICT）等の劇的な進歩
- 生活の安全と安心を求める意識の高まり
- 価値観の変化とライフスタイルの多様化
- 女性が活躍する社会づくりの要請
- 地方分権改革及び広域行政の進展
- 東京オリンピック・パラリンピック及び茨城国体の開催

第2項 茨城の特性

- 恵まれた地理的・文化的な特性
- 多様な産業と科学技術の集積
- 国内外を結ぶ広域交通ネットワークの形成

第3項 これまでの取組

- 昭和36年に「後進県からの脱却」を掲げ、初めての総合計画を策定
- 鹿島地区の開発、筑波研究学園都市の建設などの大規模開発
- 高速道路、つくばエクスプレス、茨城港、茨城空港などの発展基盤の整備

○県民所得の大幅な上昇、我が国有数の実力を備えた県として発展

第2章 いばらきの目指す姿

第1項 基本理念

『みんなで創る 人が輝く元気で住みよい いばらき』

～ 生活と産業の未来を拓く新たな価値の創造 ～

●人口減少社会の中にあっても、安全・安心、快適な生活環境のもとで、雇用がしっかりと確保され、誰もが個性や能力を發揮しながら主体的にいきいきと活躍することができる「人が輝く元気で住みよい いばらき」を創造していきます。

●県はもとより、県民や市町村、企業、大学・研究機関、NPOなど、**みんなが連携・協働**し、生活や産業など様々な分野において、社会的意義のある新たな価値を生み出すイノベーションを創出することにより、**日本や世界の発展に貢献**していきます。

第2項 県民の求める『いばらき』

県民選好度調査、大学・高校生アンケート等（約5,000人）／市町村意向調査（県内全市町村）／各種懇談会の開催（県内5地域）等

第3項 目標と将来像

【将来像】

- 科学技術研究の進展や異分野・異業種間ネットワークの活性化等により様々なイノベーションが絶え間なく生まれており、日本の経済をリードする新技術・新産業の創出に繋がっています。
- 企業立地が一層進むとともに、ものづくり産業の高付加価値化、商業・サービス産業の育成などにより、持続的に雇用を産み出す産業が育っています。
- 農林水産業の6次産業化や輸出の促進などにより高い収益性が確保され、意欲ある担い手による魅力ある農林水産業が育っています。
- いばらきの魅力や価値が国内外から広く認められ、人・もの・情報といった多様な交流が盛んな社会が形成されています。

人が輝くいばらき

活力あるいばらき 住みよいいばらき

【将来像】

- 学校・家庭・地域が連携して、自主性・自立性に富み、確かな学力・豊かな心・健やかな体のバランスのとれた子どもたちを育てています。
- 郷土を愛し、様々な知識や能力を身に付けた人材が、地域をしっかりと支えながら、世界を舞台に活躍しています。
- 互いに違いを認め合い、一人ひとりが尊重されて、誰もがいきいきと活躍している社会が形成されています。
- 生涯にわたって学び続けられる環境が整備されるとともに、文化・スポーツなどを通じて、誰もが健康で明るく心豊かな人生を送ることができています。

【将来像】

- ICTなどの技術も活かしながら、誰もが適切な医療・保健・福祉サービスが受けられる環境が整うとともに、結婚・出産・子育ての一貫したサポート体制が充実した社会づくりが進んでいます。
- 地域社会とのつながりが保たれたまちで、誰もがやさしさと潤いを感じながら快適な日常生活を送っています。
- 大規模災害や犯罪、原子力災害などに対する生活の安全がしっかりと確保され、安心して暮らし続けられる社会が形成されています。
- 豊かな自然を守り、上手に活かしながら、人と自然が共生する生活を送っています。

生活と産業の未来を拓く『イノベーション大県いばらき』

【将来像】

- 医療や福祉、教育や文化、環境など様々な分野において、人口減少・超高齢化社会の到来など社会経済情勢の変化に的確に対応したイノベーションが創出され、安全・安心で質の高い暮らしが営まれています。
- 最先端科学技術や高度なものづくり産業の集積、さらには農林水産物をはじめとする自然の恵みなど本県の際立った強みを活かして、未来を支え切り拓く産業が創出されるなど、郷土いばらきの飛躍はもとより、日本や世界の発展に貢献しています。

第4項 人口・経済の展望

【人口の展望】平成37（2025）年には概ね280～281万人程度、平成62（2050）年には概ね239～252万人程度になると見込まれます。

【経済の展望】平成37（2025）年までの年平均で実質経済成長率は2.0%程度、名目経済成長率は3.0%程度になると見込まれます。

第3章 計画推進の基本姿勢

県民総参加のいばらきづくり／地域資源の活用・発掘と情報発信／広域連携と権限移譲／適切な進行管理と行財政改革の推進／部門別計画との役割分担

第2部 基本計画〈5年間／H28(2016)～32(2020)年度〉

第1章 政策展開の基本方向

◎3つの目標に対応する施策及び主な取組を、12の政策分野に分けて総合的かつ体系的に整理して示します。

1 「人が輝くいばらき」づくり

- (1) 自主性・自立性を身に付け 生きる力を育む教育の推進
- (2) 地域と世界の未来を拓く人材の育成
- (3) 一人ひとりが尊重され活躍できる社会づくり
- (4) 生涯にわたって学び合う 環境づくりと文化・スポーツの振興

2 「活力あるいばらき」づくり

- (1) 科学技術を活かした イノベーションの推進
- (2) 日本の発展をリードする 力強い産業づくり
- (3) 農林水産業の成長産業化
- (4) 人・もの・情報が活発に行き交う 交流社会づくり

3 「住みよいいばらき」づくり

- (1) 少子高齢化に対応した医療・保健・福祉が充実した社会づくり
- (2) 人にやさしい快適な生活環境づくり
- (3) 安全・安心な暮らしが確保された社会づくり
- (4) 人と自然が共生する持続可能な環境づくり

第2章 地域づくりの基本方向

◎それぞれの地域特性や地域資源を活かして、各地域において重点的に取り組むべき地域づくりの基本方向を示します。

1 目指すべき地域の姿

◎様々な主体との連携のもと、一人ひとりが生きがい・充実を感じて豊かな生活を送ることができるとともに、東京圏などの都市住民の「地域志向」にも対応した地域

2 地域づくりを推進していくための視点

- (1) 新しい「協働」による地域づくり
- (2) 愛着や誇りの持てる地域づくり
- (3) 地域間連携と広域的な視点に立った地域づくり

3 地域区分

- ◎6地域に区分。弾力的にゾーンを設定。
* 県北山間／県北臨海／県央／鹿行／県南／県西

4 各ゾーンの将来像と主な取組

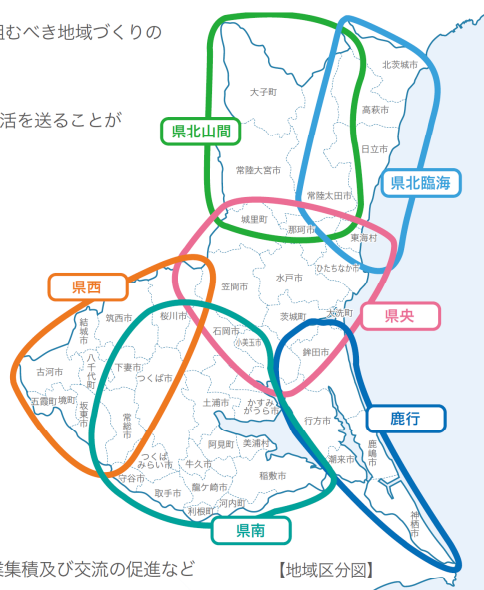
- ◎ゾーン毎に、2050年頃を展望した将来像と、地域の特性や課題に的確に対応した主な取組を示します。

5 ゾーンを横断する取組

- ◎ゾーンを横断する広域的な取組を記載。

【具体的な事例】

- ・筑波山・霞ヶ浦周辺エリアのサイクリング環境整備
- ・首都圏中央連絡自動車道や北関東自動車道沿線の市町村の連携による産業集積及び交流の促進など



【地域区分図】

第3部 重点プロジェクト〈5年間／H28(2016)～32(2020)年度〉

重点プロジェクト

分野横断的に優先して取り組むべき12テーマについて、「重点プロジェクト」を設定し、本県の特性・優位性を最大限に活用しながら、積極的に課題の解決を図ります。

重点プロジェクト1 ストップ少子化・移住促進 PJ	重点プロジェクト7 未来を創る産業イノベーション創出 PJ
重点プロジェクト2 いきいき健康長寿社会創造 PJ	重点プロジェクト8 攻めのいばらき農業推進 PJ
重点プロジェクト3 未来を拓く子ども・若者育成 PJ	重点プロジェクト9 世界に開かれたいばらきづくり PJ
重点プロジェクト4 みんなが活躍できる環境づくり PJ	重点プロジェクト10 観光おもてなし日本一 PJ
重点プロジェクト5 みんなで守る、暮らしの安全・安心 PJ	重点プロジェクト11 魅力あふれる県北地域創造 PJ
重点プロジェクト6 次世代に繋ぐ美しく豊かな環境 PJ	重点プロジェクト12 茨城国体、東京オリンピック・パラリンピックゆめ実現 PJ